

対象学年：中学校 1 年生

育成すべき資質・能力：文章の要旨を捉える力

筆者のものの見方や考え方をつかみ、自分の見方や考え方を
広げる力

育成すべき資質・能力について

佐賀県小・中学校学習状況調査において、「文章に表れている考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げる力」に課題があることが指摘されています。

この課題については、身の回りに溢れる情報を目的や必要に応じて取捨選択したり、関連付けたりしながら要旨を捉える力や要旨を自分の考えと結び付ける力が乏しいことが原因であると考えられます。

説明的文章の要旨を捉えるためには、序論・本論・結論の大きなまとまりをつかみ、その中心となる部分を見付けさせていく必要があります。1 年生では、文章の中心となる部分と付加的な部分とを読み分けられるような力を丁寧に養うことを目指します。その際、各段落の役割にも注目させることが、読み分けの一助になります。

また、授業者が作成した言語活動のモデルを生徒に示した上で、生徒が自分の考えを表現する活動を取り入れることは、生徒のものの見方や考え方を広げることに繋がります。

単元の実践においては、以下に示すような、生徒が見通しをもち、身に付けた言語能力を振り返るための「学習計画表」、文章の要旨を捉える力を習得するための「学習のてびき」や筆者のものの見方・考え方をつかみ、自分の見方や考え方を広げるための「学習シート」を活用することで、生徒が単元で身に付ける資質・能力を意識し、より深い思考を伴う言語活動を行うことができます。

【見通しをもち、振り返りを行うための学習計画表】

この単元を通して身に付けた言葉の力	振り返る	広げる・深める				つかむ	
	5	4	3	2	1	時間	
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
どのような場面でそれをいかせるだろう？	「 ○グループで交流し、コラムを推敲する。 ○新聞のコラムの相互評価をする。」	「 ○「幻の魚は生きていた」の要旨とそれに対する自分の考えを新聞のコラムのように書く。」	「 ○結論部分を要約することで筆者の考えを捉え、自分の考えをもつ。（共感・納得・疑問・反論）」	「 ○序論・本論に書かれているクニマスにかかわる出来事を年代順に並び替えて情報を整理し、筆者の主張の根拠となる部分を抜き出す。」	「 ○学習課題を知り、学習の見通しをもつ。 ○本文を通読し、序論・本論・結論に分ける。」	学習内容(○)と自分のめあて【 1 】	
						学んだことや考えたこと	

学習課題

この単元では、文章の要旨を捉える力を身に付け、自分のものの見方や考え方を広げることができるようになる学習をします。課題は、文章の中心的部分を選び、本文の要旨を捉え、それに対する自分の考えを新聞のコラムのように書くことです。

文章の要旨を捉え、自分の考えを新聞のコラムのように書く

学習計画表

組 号

【要旨を捉えるための学習のてびき】

序論	本論	結論
私たちは、毎日いろいろな種類の野菜を食べています。野菜は植物ですから、根や葉、茎、花、実などの器官からできています。例えば、キャベツやレタスなら葉の部分を食べていますし、トマトやナスなら実の部分を食べています。 それでは、私たちが普段食べているネギはどの器官なのでしょう。か。下に根がついているし、地面から生えているので茎のように思えるかもしれませんが、そんなに単純ではありません。ネギは、根に近い方が白く、上にいくほど緑になっていきます。色はそのように部分によって違いますが、よく見ると緑の部分にも、白の部分にも同じ脈の筋が入っています。この筋が、ネギが植物のどの部分かを示す重要な鍵になります。実は、この部分は葉脈と呼ばれ、断面を顕微鏡で見るとチューブのような管状になっています。葉脈とは、植物の葉に存在して、水や養分を供給し、光合成によって作り出されたデンプンなどを運ぶ路のことです。つまり、私たちが食べるネギは、上の方が緑で、下の方が白と色は違いますが、同じ葉の部分なのです。 では、なぜ色が異なるのでしょうか。じつは、色が異なるのは栽培の方法に理由があります。植物の緑は葉緑体の色です。葉緑体は日光に当たることによって生成されます。ネギの白い部分は、土を盛り上げて、日光に当たらないようにして育てられることで白くなっているのです。 緑の部分と白い部分は、同じ葉の部分ですが、含まれる栄養分や味はちがっています。 緑の部分は、太陽の光をしっかり受けて育つので、カルシウムやビタミンが多く含まれています。香りがよく辛みがあります。白い部分は、体を温め、食欲を増す作用のある硫化アリルという物質が多く含まれています。加熱することで甘みが増すのが特徴です。これらの特徴が料理によって使い分けられてきました。また、西日本では、緑の部分が多い青ネギ、葉ネギが好まれ、東日本では、白い部分が多い白ネギ（長ネギ）が好まれてきたという歴史もあります。 このように、ネギは、茎のようですが実は葉で、同じ部分にも開けられ、色によって分けられる部位で味もちがうのです。普段何気なく食べているネギも、植物として観察してみると興味深い発見があります。他の野菜はどうか。いろいろと調べてみるか。これまで気づかなかった野菜の新しい魅力が見えてくるかもしれません。 稲垣宗洋「ダイコンは大きな根」『図解1「光村」を基にプロジェクト研究会で作成	①話題や問題提起となる部分 野菜は根や葉、茎、花、実などの器官からできている。 ②筆者の主張となる部分 ネギは、緑の部分と白い部分があるが、両方とも葉脈があり、葉である。色が異なるのは栽培するときに、日光を当てる部分と当たらない部分を作るからである。緑の部分と白い部分は、含まれる栄養分や味が異なっている。 ③主張を支える根拠となる部分 何気なく食べているネギも、観察すると興味深い発見がある。調べると他の野菜でも新しい魅力が見えてくるかもしれない。	要旨：文章の中心となる内容・事情のこと。 要約：目的に応じて、文章の大事な部分（要点）を短くまとめること。 要旨：話し手や書き手が述べようとしている内容の中心となるもの。また、それを短くまとめたもの。 要旨は、次の手順でまとめる。 ①何が話題・問題になっているのかをつかむ。 ②筆者の主張をつかむ。 ③主張を支える根拠をつかむ。

学習のてびき
説明的文章の要旨をまとめる

学習日
／

組
号

★説明的文章の要旨を捉える際には、段落の役割について注目してみよう。 【ポイント】 序論：話題提示・問題提起 本論：問い・答え＝主張を支える根拠 結論：筆者の主張	①何が話題・問題になっているのかをつかむ。 ②筆者の主張をつかむ。 ③主張を支える根拠をつかむ。	要旨：話し手や書き手が述べようとしている内容の中心となるもの。また、それを短くまとめたもの。 要旨は、次の手順でまとめる。 ①何が話題・問題になっているのかをつかむ。 ②筆者の主張をつかむ。 ③主張を支える根拠をつかむ。	要旨：話し手や書き手が述べようとしている内容の中心となるもの。また、それを短くまとめたもの。 要旨は、次の手順でまとめる。 ①何が話題・問題になっているのかをつかむ。 ②筆者の主張をつかむ。 ③主張を支える根拠をつかむ。	要旨：話し手や書き手が述べようとしている内容の中心となるもの。また、それを短くまとめたもの。 要旨は、次の手順でまとめる。 ①何が話題・問題になっているのかをつかむ。 ②筆者の主張をつかむ。 ③主張を支える根拠をつかむ。
--	---	---	---	---

【要旨を捉えるための学習のてびき】は、既習教材をモデルとした文章を例に、要旨をまとめる際のポイントを視覚的に示しています。

【情報を整理し、自分の考えをもつための学習シート①】

3. 自分の考えを書く。（共感・納得・疑問・反論）	二〇一〇年 十二月 クニマス発見のニュースが報じられた。	年 出来事 秋田県の田沢湖だけにクニマスが生息	1. 時系列で出来事を整理する。 ①「絶滅したはずのクニマスが生きていた」というニュースが報じられるまでの出来事を整理しよう。 ②出来事の中で筆者の主張に結びつく根拠となる部分に線を引こう。	文章の要旨を捉え、自分の考えを新聞のコラムのように書く。学習シート① 学習日 ／ 組 号
	教科書の結論部分を貼り付けてください。	2. 筆者の主張を抜き出す。 ①結論に書かれている筆者の主張と読まれる部分に線を引こう。 ②線を引いた部分をつないで、筆者の主張としてまとめよう。		

【情報を整理し、自分の考えをもつための学習シート①】は、本文中にある出来事を時系列で抜き出し、整理した上で、筆者の主張と読み比べ、関連性を考えることで、生徒に自分の考えをもたせるねらいがあります。

文章の要旨を捉え、自分の考えを新聞の
コラムのように書く 学習シート②

學習日

組
号

◎六百字程度でコラムのように書いてみよう

★コラムの書き方

- ① 関連する文章の「要旨」を書く。
- ② 要旨に関わるニュースを選択する。
- ③ 要旨とニュースに対する自分の考えを書く。

コラムの例

小学校の国語の教科書に、次のような話が載っている。モアイ像で有名な絶海の孤島、イースター島。無人島だった頃は、森林に覆われていたが、今はほぼ森林がない。原因の二つ目は人とともに島に来了ラット。森のヤシの実を食べてしまった。二つ目は、森を伐採して行った作物の栽培。三つ目は、巨大なモアイ像の移動。これらはすべて森林破壊につながり、島には人が住めなくなつた。食料の生産・調達ができなくなったイースター島の人人々は、食料や資源を奪い合う争いを始め、ついに文明社会のしがらみを脱した。地球はイースター島と同じ運命をたどっているのではないか。イースター島と同じ未来を回避するためには、未来を生きる子孫のことをどれだけ考えられるかにかかっている。【警告! ぞろぞろイースター島にはなぜ森林がないのか】◆

一六歳の環境活動家、グレタ・トゥーンベリさんは、現代活字を前に、「世界的首領は環境問題に取り組んでいない」「今の放出的レベルのままでは、あと八年半たないうちに、許容できる二酸化炭素の放出量を超えてしまう」と述べ、大人としての責任を求めた。◆「今」だけに特化した文化はやがて衰退してしまう。

「子孫に思いをめぐらす文化」とはすなわち、「持続可能な社会」のことである。「今」の人類の都合で、未来の人類や動植物が絶滅の道にたどってはならない。今こそ子孫のために自然や動物に優しい生活を送っていかなければならない。

(五九五字)

【モデルを参照し、自分の考えを表現するための学習シート②】は、言語活動のゴールのイメージを生徒に具体的に示すためのシートです。原稿野も、モデルの字数に合わせた形にすることで、書く内容の割合もつかみやすくしています。

単元例

1. 単元名「文章の要旨を捉え、自分の考えを新聞のコラムのように書こう」

2. 学習材「幻の魚は生きていた」中坊徹次（光村図書1年）

3. 言語活動について

本単元では、説明的文章の要旨を捉え、その要旨に対する自分の考えを新聞のコラムのように書くという言語活動を行う。

新聞のコラムの書き方のパターンの一つに、ある出来事や文章、小説を筆者の視点でまとめた要旨あるいは要約が前段にあり、その後に類似・関連した話題、そして、書き手の考え・主張・伝えたいことを書くというものがある。この文章構成を用いてコラムを書くことを学習のゴールとすることで、要旨を捉える力と、自分のものの見方や考え方を広げる力を身に付けさせたい。

要旨については、筆者の主張と各段落の中心となる部分を関連付けた上で、内容を取捨選択させてまとめさせる。自分のものの見方や考え方については、筆者の考えに対する自分の考えが共感・納得、疑問・反論のいずれに当たるのかをはっきりと意識させる。また、他の学習者の見方や考え方とも比較させながら広がりや深まりをもたせたい。

4. 学習目標 ①本文の中心的な部分を読み取り、要旨を捉える。

②文章に表れている筆者の見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げる。

5. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度【関】	読む能力【読】	言語についての 知識・理解・技能【言】
①言語活動に興味をもち、目的意識をもって文章を読み、新聞のコラム作りに取り組もうとしている。	①文章の中心的な部分を捉えている。 ②文章に表れている筆者の見方や考え方を捉えている。	①新聞のコラムを書くに当たり、語句を適切に使用している。

6. 生徒に示す学習課題

この単元では、文章の要旨の捉え方を身に付け、自分のものの見方や考え方を広げることができるようになる学習をします。

課題は、文章の中心的な部分を選び、本文の要旨を捉え、それに対する自分の考えを新聞のコラムのように書くことです。

7. 単元の指導計画

次	時間	主な学習活動	評価規準【 】 評価方法【 】
1	1	・「新聞のコラムを書く」という学習活動と学習課題を知り、学習の見通しをもつ。 【学習計画表】【学習のてびき】【学習シート②】 ・文章の構成に注意しながら、本文を通読し、序論・本論・結論の文章構成を捉える。	【関①】 [学習計画表の記述分析]
2	2	・本文に書かれているクニマスにかかわる出来事を年代順に並べ替え、情報を整理する。 ・筆者の主張に関連する中心的な部分(根拠となる部分)を抜き出し、要約する。 【学習シート①】	【読①】【言①】 [学習シート①の記述分析]
	3	・結論に書かれている筆者の主張を捉え、自分の考え(共感・納得、疑問・反論)をもつ。 【学習シート①】	【読①②】【言①】 [学習シート①の記述分析]
	4	・まとめた要旨に対して、自分が書いてみたいニュースを授業者が提示した例から選択する。 ・要旨とニュースに対する自分の考えを新聞のコラムのように書く。 【学習のてびき】【学習シート②】	【読②】【言①】 [学習シート②の記述分析]
3	5	・コラムに書いた自分の考えの部分について、グループで交流し、推敲する。 【学習シート②】 ・書き上げたコラムをグループ内で相互評価する。 ・この単元で身に付けた力を確認する。 【学習計画表】	【関①】 [学習計画表の記述分析]